

項目	詳細
訪問（視察）場所	吉林省長吉図国際物流集団進出口有限公司
訪問日時	平成 24 年 7 月 12 日（木） 15:00～16:00
概要	<p>■概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社に隣接するターミナルは、琿春とロシアのカミショーバヤを結ぶ駅で、2002年に列車を通したことがある。 ・その後、ロシア側 20.3 km、ロシア民営企業の所有する区間がありその企業との間でトラブルのため、運行が中断した。 ・2011年8月、その企業が破産し、ロシアが買収して現在は国の所有になっている。（ロシア・中国の国境の近く）国家鉄道部門で管理しており、来年には運行できる予定である。 ・当社としては、今後はロシアの国レベルと協議をすることになるので、これからはとん挫することはない（6月29日、ロシアの関連部門と検討を行った）。 ・当社は、航路、港のインフラに投資をしている。 ・ザルビノ港は1970年代に建設された、歴史ある港である。当時、鉄路は整っていた。 <p>■質疑応答</p> <p>Q：鉄道の荷物検査はどこでやっているのか。また、トラックの場合はどうか。</p> <p>A：鉄道口岸（税関）が防川の方に1か所ある。</p> <p>ザルビノ港には、鉄路が敷設されており、鉄道車両がそのまま乗り入れ、荷役作業もできるようになっている。この鉄路は以前からあるものだが、整備し直した。</p> <p>鉄道の利点は、トラック輸送に比べ、手続きなどの手間が省け、人件費も割安であること。鉄道の場合、中露の国境地帯にカメラが設置されており、さまざまな検査がそのために省かれる。</p>

概要	<p>Q：この鉄路は、10年間止まっていたということか。</p> <p>A：中ロ互いの国ではそれぞれ動いていたが、国境通過の部分では繋がっていなかったということ。</p> <p>航路の問題（港のないこと）は、吉林省は港湾を持っていないので、港湾のことがわからないこと。一方で琿春市には、港湾部門がある。日本は、島国であり港湾の専門家が多い。船を確保することができないか。</p> <p>当社は、国有企業ではあるが、航路の運営に関しても興味があり、大連港経由との物流のコスト比較なども行いながら、事業拡大していきたい。</p> <p>Q：鉄道が繋がれば、ザルビノ港が使えるのか。</p> <p>A：使える。</p> <p>Q：鉄道事業はいつ始められる。</p> <p>A：本年10月頃と考えている。今年中には必ず開通する。</p> <p>Q：ロシア側にも積み替え駅があるのか。</p> <p>A：ない。本来は、中国の貨物はロシアで、ロシアの貨物は中国で積み替えるのであるが、今は、ここが唯一の積み替え駅となっている。北朝鮮との間では、鉄路はつながっていない。</p> <p>動力は、電気であるが、電気の供給が不安定なため、止まることがある。</p> <p>羅津港発の中国国内貨物（石炭）の輸送に関しては、トラックを使用している。</p>
----	---